

行に行くなど一段落したところで、いざ取り掛かろうとしたら脳梗塞でダウン。入院中も気になっていたのですが、現在退院して1年以上となるのですが、全く手つかずの状態です。これをやらないと公約違反になるので、なんとか完成したいと、年の初めにあたり誓ったところです。自身を奮い立たせるためにも、皆さんの前で公言するわけです。早くも2年はかかると思います。

今年は気持ちを高揚させ、老骨にむち打ってでも、やり残したことを完成させるべく頑張りたいと考えています。これには多くの時間を要することですが、張切って取り組む決意です。どうか見届け、ふしだらなところがあったら叱咤してください。

幸い子(ねずみ)年は、干支の冒頭の年でもあるので、今年が人生の始まりの年であるというような気持ちで、余生を過ごしていきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

さて、話は変わりますが、立ったり座ったりが億劫になったせいか、テレビを見る時間が多くなったようです。昨年は、太平洋戦争の甚大かつ悲惨な被害の様子の番組が多くありました。そんなとき思うのは、大変な国力の違いから、勝ち目が少ないのに、何故そんな無謀な戦争に突入することを抑止する勢力がなかったのだろうかという疑問に思うことでした。

一方、最近本を読む機会が減っていました。本屋へ行って本を買うのですが、少し読んではそのままになってしまいます。それで、今年は心を入れ替えなくてはと、正月三が日、そうした読みかけの本を何冊か読み終えました。その中の一冊が私の疑問に対し、回答と言わないまでも、思考と設問を整理するのに大いに役立つものでした。お読みになった方があるかもしれませんが、藤原正彦『国家と教養』(2018.12.20 新潮新書)という本でした。歯切れがよく、読みやすい文章で、数学者らしい組み立て、論理構成で、面白い有益な本でした。是非一読をおすすめしたいと思います。

私なりにまとめてみれば、国のリーダーたる人は、教養を持たなければならない。国のリーダーが、外国の顔色をうかがうなど論外である。国民の目線に立つのも良くない。国民には国をリードする能力がない。国

民の心の底にある不安や不満を洞察し、大局観に立った国の10年、30年、50年先を見据えつつ、命を捧げるつもりで国をリードしなければならない。この為に、堂々たる価値基準を持たなければならない。それには教養の蓄積が決定的に必要である。現代社会の病の体質は、世界的規模での民主主義の浸透に、国民の教養がついて行っていない、という不合理にあった。日本人としての情緒や形を持たない人間は、舶来の形にあつという間に圧倒される。大正時代以降の教養層は、大正デモクラシーに圧倒され、ついでマルクス主義に圧倒され、そしてナチズムに圧倒され、戦後はGHQに圧倒され、今ではグローバリズムに圧倒されている。現代に至る日本の知識人のひ弱さは、世界に誇る我が国の大衆文化、すなわち日本人としての情緒や形を軽侮したことに因がある。そして、教養とはなんぞやという著者の考えを縷々展開しています。

## 年男新年を語る

大嶽健太郎君

明けましておめでとうございます。48歳の子年です。新たな気持ちでスタートでき、諸先輩の前で抱負を語れることに感謝申し上げます。



少子高齢化で日本の人口が年間36万人ずつ減っています。西暦3000年には日本の人口は2000人になってしまうという予測も立っているそうです。

そんな時代だからこそ、女性が家庭と仕事を両立できる職場環境を整えていくことが、私の今年の目標です。本年もロータリーの皆様にご指導いただきながら、成長できる1年にしていきたいです。井口先生、梨本さん記念の3ショットありがとうございます。

